

# 水書で使う用具, ならべ方, 姿勢・持ち方, 後片づけ

【小学校国語科(書写) 内容解説資料】この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っています。

## 水書で使う用具

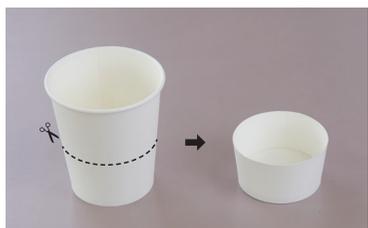
### 水書用筆



水書用筆が販売されるようになってきましたが、以下のことを参考に代用品でも可能です。

- 軸の太さは、鉛筆に近いものがよい。
- 穂の長さは、小筆より短いものがよい。  
(15mm～18mmが望ましい。)
- 穂の毛質は、限定しない。

### 水入れ



タンク式の水書用筆は、水をこぼすことなく便利ですが、まだ指先の力が弱い低学年では、水を押し出せないことがあります。児童の実態や学校の実情に応じて用具を選択しましょう。

他の筆の場合は、水入れが必要となります。倒して水をこぼさないよう、高さの低いものが適当です。

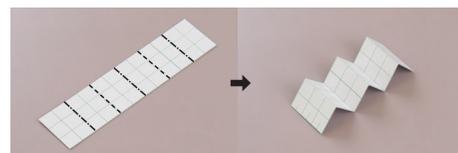
例) 紙コップや牛乳パックを半分に切り高さを低くしたもの、プラスチック製小皿、シリコンケース、切手用の水皿など



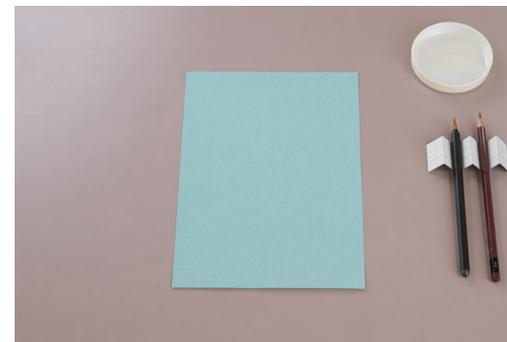
### 筆置き



鉛筆と水筆を置くためのものです。工作用紙(3×12cm)を2cmずつ蛇腹に折ったものを利用すると便利です。



## ならべ方



水書用筆と鉛筆と交互に使うことができるような配置を工夫できるとよいでしょう。



水入れは、水をこぼさないように、机のほしに置かないようにしましょう。

## 姿勢・持ち方



水書用筆の学習は、硬筆に生かすために行うので、硬筆と同じ姿勢をとります。



鉛筆



水書用筆

鉛筆と同じ持ち方で持ちます。手を浮かせることなく、机に置いた状態にするよう気をつけましょう。

## 後片づけ



- 筆の穂先はティッシュペーパーなどでふきます。

### 学級で回収して保管する場合

- 筆 —— 立てて保管できるようにする。
- 水書用紙 —— 十分に乾かした後であれば、重ねて保管できる。
- 筆についているキャップは捨てる。  
※タンク式の水書用筆については、キャップを捨てない。